活動報告書

団体名：みえぬいぐるみ病院（Mie Teddy Bear Hospital）

問い合わせ先：mie.tbh@gmail.com

① 活動を始めたきっかけ・活動の目的

活動を始めたきっかけは、名古屋大学で開催された医療系イベントで知り合った学生による「ぬいぐるみ病院」の紹介である。この団体は、ぬいぐるみを患者、こどもを付き添い役、学生を医師などの医療者に見立てた「ぬいぐるみ病院」というお医者さん・診察ごっこと、劇や紙芝居を通じてこどもに健康や体に関する知識とよりよい生活習慣を身につけてもらうための保健教育を行っているという。全国約 30 の大学に団体があり、世界中にも約 40 か国で活動が展開されているそうだ。話を聞いたのでどんな活動か見に行ってみようと思い、「なごやぬいぐるみ病院」の学童保育所の活動、「はまいぬいぐるみ病院」の保育園の活動や、全国の大学のぬいぐるみ病院のメンバーが活動のスキルアップや活動共有を目的に集結するイベントに参加した。そして、学生という大人より近い立場から、親しみやすい題材でこどもに医療や健康について知ってもらい、学生自らも医療、健康やこどもの接し方などを学び、こどもと共に成長する意義や喜びを肌で感じ、「ぬいぐるみ病院」の活動への興味が大きく深まった。三重県でも一人でも多くのこどもが「ぬいぐるみ病院」を通して医療に親しみを持ち、より健康になってほしいという思いで、三重大学で「みえぬいぐるみ病院」を立ち上げた。(設立者: 藤田翔子)

はじめまして。みえぬいぐるみ病院次期代表の萬代翔香です。

私が本サークルに入らせて頂いたきっかけは、昨年 11 月に初めて参加した NGA(IFMSA 日本総会という医療系団体イベント)にて、名古屋大の牧野さんからぬいぐるみ病院のお話を伺い、興味を持ったことだ。以前から私は、「いかにすれば病気を予防でき予後の回復も早くできるか」、「いかにすれば健康増進を図れるか」に興味があった。幼少期に聞いたお話などは頭に残りやすく、その人の今後の人生に大きく関わる。免疫力が低いのはお年寄りと子供であるが、前文で述べた理由から啓発運動がより効果的に働くのは子供の方だと考えた。私たちが関わらせて頂いた子供たちが、周りを巻き込みながらそれぞれ健康について考えられるようになれば、他者の健康についても配慮できるよりよい社会(例:受動喫煙のことを考え所構わずの喫煙はしなくなる、等)につながるのではないかと思う。私たちの活動が彼ら・彼女たちにとって微力ながらもいいきっかけになればと思い、先輩方と共に今後の活動を頑張っていきたい。(萬代翔香)

活動の目的は、簡潔にいうと、「こどもたちの医療に対する恐怖心の払拭や健康増進」である。活動の最終的な Vision は、『子どもたちが健康になれるように広くはたらきかけ、将来的にぬいぐるみ病院に参加した子どもたちが周囲を巻きこんで健康に近づけることを目指す』である。

②メンバー構成

三重大学医学部学生 10 人（医学科 6 人看護科 4 人）

2013 年度後期～2014 年度末代表　藤田翔子

2013 年度後期～2014 年度末副代表　畔柳有里

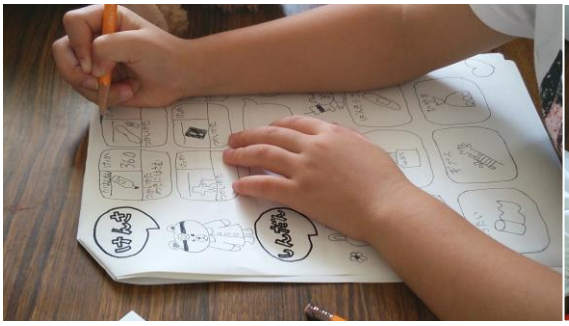
2015 年度次期代表　萬代翔香

③現在の主な取り組み内容

三重大学医学部附属病院学童保育所さくら組にて、年に 3 回程度 1 回あたり 1～2 時間かけて、保健教育またはぬいぐるみ病院という診察ごっこを行っている。

保健教育は毎回テーマが異なり、学生間での話し合いや学童保育所の方の意見を伺うことにより決定している。テーマ決定後、テーマについての勉強会、保健教育の物品作りを活動の事前に行う。勉強会では、いかにしてこどもにかみくだいた言葉で教えるか、どこまで教えるかを考え、どのように理解を確認するかなど熱心に議論している。保健教育の物品づくりでは、進行の助けとなる紙芝居、模型、ごほうびなどを作成している。保健教育では劇を行うこともあり、その場合は衣装や服装を工夫する。楽しく参加してもらえるように創意工夫を心掛けている。

ぬいぐるみ病院では、学生が医師役、こどもが患者の付き添い役、こどもが持参したぬいぐるみを患者役に見立てている。この診察ごっこ内で、学生はぬいぐるみに問診、検査、診断、治療、元気になるための「お約束」を施す。こどもがぬいぐるみの代わりに学生の問いかけに答える。使う道具は、白衣、聴診器（心音が聴こえる）、体温計、注射器、包帯、手作りのカルテ、薬、レントゲン BOX、あて木、舌圧子などであり、簡単ではあるができるだけ本物の診察に近くしている。学生はごっこ内で、医療器具の特徴・使い方や気を付けるべき生活習慣などのこどもに有益な知識を解説する。「お約束」では、設定した疾患の予防法や処置法にまつわる約束を学生と子供の間で交わし、3 日間続けて結果をカルテに色塗りし、よい生活習慣を身につけられるよう促している。1 回の活動の最後にこどもに参加賞カードを渡し、学びに対するごほうびを与えている。



④地域との連携の具体的な状況

　現在は、三重大学医学部附属病院学童保育所さくら組の協力を得て、そこに来る小学生に対してぬいぐるみ病院の活動を行っている。その小学生たちは、三重大学附属病院で働く医療従事者のこどもである。学童保育所の方および小学生たちはこの活動に好意的で、特に実際にぬいぐるみ病院を受けている小学生たちは素晴らしい笑顔を見せてくれる。

⑤これまでの取り組みの成果・課題

2013 年 10 月に三重大学医学部生による「みえぬいぐるみ病院」を結成し、2013 年度は計 3 回の活動、2014 年度は 1 月までに計 3 回の活動を実施した。現在までの取り組み内容を以下に述べる。

2013 年度

11 月 25 日：ぬいぐるみ病院（診察ごっこ）のみ

2014 年 1 月 7 日：ぬいぐるみ病院（診察ごっこ）のみ
2014 年 2 月 17 日：お医者さんごっこ（こどもが医師）、保健教育「脳と神経」
2014 年度
5 月 26 日：保健教育「食育」
7 月 11 日：ぬいぐるみ病院のみ
7 月 31 日：ぬいぐるみ病院、保健教育「熱中症」

⑥今後の方向性・将来の夢

今後の方向性としては、三重県のこどもが一人でも多く健康であれるように、医療に親しみを持てるように、活動先を増やしたい。そして、学内のサークルや外部の団体とコラボしてこどもたちに新たな色をもつぬいぐるみ病院を実施したい。そのために、団体の規模を大きくし、活動の認知度を上げたいと思う。このような夢を実現させるために、保健教育やぬいぐるみ病院という診察ごっこを、こどもたちにとってさらに楽しく実のあるものにしたい。また、全国規模の団体として、他大学のぬいぐるみ病院との連携を強くし、活動共有を通してみえぬいぐるみ病院の活動の質をさらに向上させようと考えている。これに加えて、今後できれば親子を対象にしたぬいぐるみ病院の活動もしていきたい(子供に最も影響力を与えるのはその保護者であるため)。